

# 競馬場への呼び水となった 帯広の観光拠点「とかちむら」

ばんえい十勝四年目に誕生した「とかちむら」は、帯広競馬場の観光地化に大きく貢献し、新しい人の流れを生み出しています。



誕生しました。ご神体として祀られているのは「滑り止め」がついたばん馬の冬用蹄鉄。遊び心のある合格祈願の祈名所として、受験生や観光客の関心を集め、お守りや絵馬などの開運グッズも喜ばれています。

## 産直・飲食・物販の三部門で一貫して「十勝」をアピール

とかちむらは一貫して「十勝」を代表する産物や食、人の交流拠点を目指してきました。地元住民の利用も多い「産直市場」では、管内の生産者が持ち寄る新鮮野菜をはじめ、チーズ、地酒、菓子などを販売。観光客も荷物を気にせず買物を楽しめるよう、宅配便の発送手続きも行っていきます。

十勝の食が集う「キッチン」には、とかちむらオープン時から人気を集める豚丼専門店「たむら」、帯広の精肉店「肉ノ五右衛門」直営で、ジンギスカンや豚ホルモンなど良質な肉を炭火で焼く焼肉店「成吉思汗屋 肉ノ五右衛門」が店舗を構えています。また平成二十七年四月にはレストラン「ミリオン・サンテ」が新装開店。地場食材をふんだんに使った料理と

毎週金曜日のスイーツバイキングが人気を集め、地元の高校生にも愛用されています。物販ゾーンの「スイーツ&セレクト」では、オープン時から「紫竹ガーデンカフェ」が営業。「紫竹のおばあちゃん」で全国に知られる帯広郊外の人気が、手作りスイーツやガーデン雑貨を提供しています。

平成二十六年には「大蝦夷農業高校銀匙購買部とかち帯広支店」が、産直市場から「スイーツ&セレクト」に移動。それとともに、十勝管内のアーティストやクリエイターが手がけたオリジナル作品や十勝産の素材を使った菓子を扱う「ローカリスト」が誕生し、若い世代の支持を集めています。

このほか、屋外スペースではフリーマーケットやクレープ販売、グルメブースの出店、ピザ焼き体験など、季節によってさまざまなイベントを開催。平成二十八年には「おびひろ氷まつり」と連動し、ばん馬の氷像やアイスラタン、雪の滑り台の設置など、冬季の集客にも力を入れています。誕生から七年たった今、とかちむらは年間三十万人以上が訪れる観光スポットとなっています。

## 観光客にも地元住民にも親しまれる交流拠点を目指す

「とかちむら」は平成二十二年、帯広競馬場の複合施設化を目指す「ばんえい十勝にぎわい創出プロジェクト」の一環として誕生しました。帯広市による同プロジェクトは、競馬場を観光資源として有効活用し、人が集まる魅力的な空間を創出。帯広・十勝の観光拠点とすることが目的でした。

八月六日、テープカットのセレモニーとともにオープン。当日は好天に恵まれ、夏休み中の家族連れで賑わいました。とかちむらを構成するのは「産直市場」「キッチン（飲食）」「スイーツ&セレクト（物販）」の三つのゾーン。これまでにない施設の誕生に従来の競馬場の雰囲気も払拭され、女



## とかちむら

【営業時間】  
10:00~19:00 (4/29~)  
10:00~18:00 (11/1~)  
【定休日】  
年中無休  
\*飲食店は店により営業時間、定休日ともに異なる。

性も訪れやすい場所になったと好評を博しました。平成二十四年度には春夏の半年間で来場者数が約十八万人に。フリーマーケットや音楽イベントなど地域密着型イベントを開催し、地元住民の利用を促した成果でもありました。

さらに集客を後押ししたのが、帯広が舞台モデルとなったコミック『銀の匙 Silver Spoon』の大ヒット。アニメ化に次いで映画化もされ、作中で描かれた帯広競馬場を訪れる観光客が増加。「聖地」にやってくる銀匙ファンを対象に、平成二十五年十月には「産直市場」内に「大蝦夷農業高校銀匙購買部とかち帯広支店」がオープン。ここでしか買えない「銀匙グッズ」が話題となりました。

また平成二十六年十二月末には「鞍馬（ひきうま）神社」が



## とかちむら 産直市場

十勝産の食材がそろった「産直市場」。新鮮な野菜を求めて、朝から訪れる地元住民も多い。

## とかちむら キッチン



「鞍馬神社」に祈願して実際にご利益があったという来訪者も。オリジナルの絵馬やお守りも好評。

どの店で注文しても共用ラウンジで飲食できるので、観光客にも競馬ファンにも気軽に利用されている。夏季は屋外のゲル内でも飲食可。

「紫竹ガーデンカフェ」の手作りスイーツや「ローカリスト」のオリジナル雑貨が人気。アニメ『銀の匙』のパネルが展示されたコーナーで記念写真を撮る人も多い。